

高江遺跡第2次調査の成果について

1. 調査要項

調査地点 仙台市宮城野区岩切字高江

調査期間 令和6年6月21日～10月11日

調査面積 568㎡

調査原因 土地区画整理事業

2. 調査概要

高江遺跡は令和元年の試掘調査で発見され、登録された遺跡である。仙台貨物ターミナル駅移転計画に伴って令和2～3年度に実施した第1次調査では、弥生時代の遺物を多量に含む洪水堆積層とこの層に覆われた水田跡、古代の土坑や溝跡、近世以降の溝跡などが発見された。

今年度の調査では第1次調査と同様に弥生時代の遺物を多量に含む層と水田跡が発見されたほか、近世の水田跡と溝跡などが発見された。弥生時代の水田跡（V層水田跡）について第1次調査の調査成果と総合すると、水田は大小の畦畔によって長方形や方形に区画され、その水田域は東西・南北が100 m前後（約1 ha）の方形の広がりを持っていた可能性が具体的に想定できた。

また調査地点における古環境を復元するため、弥生時代の基本層（IV・V層）を対象に珪藻分析を行った。珪藻には多くの種類があり生息環境の違いで棲み分けを行う特徴がある。その結果、対象試料全てで淡水生種が優占する一方、汽水生種・海生生種も産出することが判明した。



遺跡位置図



1. 調査区から七北田川方向を望む（南西から）



2. V層水田跡、畦畔調査状況（東から）



1. V層水田跡全景（1区北部，直上から）



2. V層水田跡全景（1区中央部，直上から）



3. V層水田跡全景（1区南部，直上から）
V層水田跡

